



小阪病院

(平成29年2月6日訪問)

平均在院日数145.7日（平成29年1月31日時点）

積極的な取り組みなど

- 廊下の壁には凹んだ部分がたくさんあり、花や動物の写真等、季節に合わせたものが飾られていた。高齢者の多い病棟では、凹んだ部分に透明のカバーを掛け、その中に掲示や飾りが置かれていた。
- 前回と同様、長期入院の患者の退院促進のためにデータ管理や抽出を担当する職員がいた。毎年5年以上入院している患者を主治医・病棟毎にリスト化して、その年の間に退院支援を重点的に行う患者を決め、多職種でカンファレンスを行い、毎週・

毎月の会議で進捗状況を確認しながら退院支援を行っていた。平成29年1月時点での入院患者は118名（平均年齢60歳以上）でこの取り組み対象者は6名。

前回の訪問（平成23年3月）から改善されていた点、未改善点等

- 前回訪問時、一部の病棟において、病院職員数名がサポーターの近くにいて、サポーターの活動の様子をメモする人もいたため、患者から聞き取りがしにくかった。今回は、このようなことはなかった。

病院全体

平成15年に建てられた病棟は明るく柔らかい色調の内装で、ハード面で気になるところはなかった。病棟構成は前回訪問時と変わっていなかった。

看護師は上服が32色から選べるとのこと、様々な色の職員がいた。明るくモチベーションを上げるために、導入したそうだ。OTはジャージ等、PSWは基本的に白衣着用とのことだった。

意見箱・人権擁護委員会・行動制限最小化委員会

意見箱はデイルームの隅にあった。意見箱への投書は看護師長と事務長が月2回回収し、月1回開催される医療安全管理委員会で検討される。回答はデイルームに掲示されていた。

人権擁護委員会は月1回、行動制限最小化委員会と同時に開催される。

車椅子の患者のベルトの色は2種類あり、緑色はずり落ち防止、青色は転倒防止のための「身体拘束（指定医の判断で行う、行動制限最小

化委員会で検討の対象」とされていた。点滴を抜かないようにするために身体を縛ることは、4時間未満を「固定」、4時間以上を「身体拘束」と位置付けていた。感染隔離も隔離として計上している。

入浴

入浴は週3回。シャワー室があり、希望すればいつでも使用可能。

食事

週3回、昼・夕食が選択メニューになっていた。

面会

面会時間は10～17時。各病棟に面会室があった。

金銭管理

全体で金銭の自己管理が430名だった。金銭を病院に預ける場合の管理料は1日100円。13病棟には鍵付ロッカーはなかった。



医療福祉相談室・退院支援

PSWは、病棟担当13名、外来・デイケア・施設担当4名。退院後生活環境相談員、退院支援相談員はいずれもPSW。

家族に理解を求めるることは難しいが、仮に再入院が必要になった時は当院が受け入れるという説明をすることで、安心する家族が多いとの説明だった。

病棟の様子

電話

デイルームの窓際にあり、個室になっていた。携帯電話は、開放病棟には持ち込み使用可、閉鎖病棟では、詰所で預かり、メールの確認のみ可能。

洗濯

洗濯機と乾燥機がある洗濯室、その奥に乾燥室があった。洗濯機と乾燥機の使用料は合わせて1日100円。

病室

4人部屋が中心。病室毎に洗面台とトイレがあった。ベッド横に鍵付床頭台、ベッド周りにカーテンがあった。各部屋の窓は大きく、室内は明るかった。

デイルーム

詰所前に広いデイルーム、小さなデイルームも病棟内に数ヶ所あり、給茶器・自販機・郵便ポスト等があった。大きな窓から景色が見渡せ、明るかった。

掲示物等

エレベーター横に、当日勤務の職員名と写真入りの掲示があった。病棟内には、入院中の精神障害者の権利に関する宣言が掲示されていた。

5階病棟 閉鎖 男女 急性期治療 60床

月に35名程の入退院があり、患者は1ヶ月で半数以上が入れ替わる。東大阪市・大阪市からの入院が多く、まれに奈良や神戸といった遠方から受入れている。うつ病の患者が多い傾向にあり、認知症患者も増えている。認知症患者を受け入れる場合は、周辺症状がある場合が多く、個室で対応している。身体合併の患者も多い。身体疾患が悪化すれば、転院することもある。

医師配置加算(16:1)をとっており、診察は週1回以上、少なくとも週2回は診察を行っている。2ヶ月以内に退院できるようにしたいが、現実はなかなか難しく、現状の課題であるとの説明だった。

訪問時、身体拘束の患者はいなかった。長期間隔離室にいる患者は殆んどなく、数日間で総室に移るが、時には数週間にわたって隔離室に入っている患者もいる。

患者の声

「何もすることがないので、塗り絵をしている」「退屈」「2週間前に入院した。4回目の入院。入院する病棟はばらばら」「シャワーはいつでも自由に使える」「薬は看護師が部屋に持って来てくれる」「担当ワーカーは

8階病棟 開放 男女 精神療養 60床

長期入院・慢性の患者が多く、退院先としては施設も含めて患者の状況に合わせて、個別にアプローチしているとのこ。毎週土曜日に、SSTとして、地域生活に適応するためのプログラムを実施しているとのことだった。「地域生活支援センターふう」に通所している人が体験談を話しに来たり、「ふう」のカフェに行ったりする交流もある(少人数、自由参加)。

デイルームには患者4、5名がばらばらに座っていた。デイルーム横のコーナーで出張OTが行われていて、2名の患者が紙のお面を作成中だった。15時に音楽が流れラジオ体操が始まり、患者6、7名と職員が参加していた。

患者の声

「入院してだいぶになる。もうすぐ退院する」「ずいぶん長い。自分で洗濯できないので業者に出している」「先生が診察してくれて、会えば声を掛けてくれる。食事は、魚がダメなので売店で食物を買ったりする。お金は、家族が毎週土曜日に1,000円を持って来てくれる。管理代が1日200円いるから」

10階病棟 開放 女性 精神療養 60床

5年以上の長期入院患者が多い。退院を進める病棟で、毎週木曜日に外へ出るためにSSTを行い、時間をかけてほぐしているとのことだった。カラオケ・ネイルケア・行事・カレンダー製作のプログラムが組まれていた。プログラムを楽しみ「今日は、何するの?」と聞きに来る患者もいるとのこと。

訪問時、病室は不在の人が多く、残っている患者の多くはカーテンを引いていた。デイルームはばらばらの位置に4名がいた。病棟全体が静かだった。

患者の声

「10年以上入院している。届出して外出している。買物は行かない、家族が持つて来てくれる。お金は自分で管理している。洗濯は自分でしている。1回1回払わないけど預けているお金から引かれているんやろな。プログラムは、前は行ったが今は行ってない」「入院して1週間。診察は、1日2回ある。売店に行ったり、携帯電話は自由に使っている」

11階病棟 閉鎖 男女 精神療養 60床

多くの患者がデイルームで過ごしていた。患者がはがすことがあるので掲示物は高い位置にあった。

患者の声

「買物は職員と売店に行く。購入した額が口座引き落としになる。3ヶ月後の退院の話し合い中」「長く入院してる。特に不満はない、満足している」「退屈。トランプやオセロをしたいができる人がいない」



13階病棟 閉鎖 男女 認知症治療 57床

15名程の患者がデイルームで過ごしていた。多くの車椅子の患者は詰所近くに座り、他の患者の半数以上は椅子に座り、その中には自分の意思で移動する人もいた。デイルームでは、車椅子にベルトで固定され、立ち上がりえない患者もいた。出会った殆んどの患者は寝間着だった。基本的には、着替えは入浴時ののみのことだった。

病棟内には習字の作品が飾られていたが、その他の掲示物は他の病棟よりは少なめだった。

患者の声

「入院して4ヶ月。買物は売店に行く。支払いは伝票を使い、現金は持っていない。退院の話はない」「嫌と思ったことは一つもない。楽しい」「妻は無く、子どもは遠いので、退院したくない」

OT室

様々な病棟から患者が来歩いて、年齢層も入院期間もばらばらだった。高齢の患者が体操をしたり、習字等のプログラムを黙々としている患者もいた。選択できる、自由な雰囲気だった。部屋の外に小さな畑があり、認知症病棟の患者(約10名)が作物を育てている。職員に車椅子を押されて散歩に来ていた。

患者の声

「週5日来ている」「毎日手持ちぶさたでここしか行くところがない」「自分の担当のワーカーが誰か知らない」「主治医はよく来てくれる」「OTは楽しい」「職員は優しい」「鍵付ロッカーは使っていない」「外出はしていない」「外出・外泊もできる」「携帯の持込みはOKだが、メール確認のみ。通話はできない」「自分で買物はしない。家族が必要なものは買って持つてくれる。薬は自分で管理している」「退院の話は出でない」「3ヶ月以内に退院と言われている」

検討していただきたい事項

診察について

退院の目途や薬の説明を「聞いている」、「相談できている」と言う患者と「聞いていない」、「治療計画書？退院の目途？分からない」「最近入院した。5回目位。そういえば、今回は治療計画書を貰っていない。いつも貰ってるけど」と言う患者がいた。(病院：入院診療計画書には、病名、症状、入院目的、治療計画、検査内容、推定される入院期間、栄養管理の必要性等を主治医・看護師・精神保健福祉士等で記載。すべての患者に対して書面・口頭で説明を行い、本人または家族より署名をもらっている。また、診察時にも適時、主治医から治療計画や入院期間が予想期間より延長される場合は、退院支援委員会を開催して患者にフィードバックしている。)

禁止や制限への説明について

患者から「お金がなくてお腹がすいた。私も皆のように売店に行ってお菓子を買いたい。なぜ自分は買えないのか分からない」「外出できず、理

由は分からぬ」との声があった。(病院：治療上、行動制限が必要と判断した場合は、主治医又は、精神保健指定医より患者に書面と口頭で説明を行っている。また、行動制限最小化委員会によって制限の必要性について判断を行っている。)

職員の接遇について

患者から、「優しい」という声もあったが、「言い方などきつい職員もいる」ととの声もあった。また、患者から、職員について感謝の気持ちを述べながらも「忙しそう」「職員はよくしてくれる、でも忙しそう。ナースコールを押してもなかなか来ない。最近は押さずに待つようしている」と言う患者もいた。(病院：接遇研修を2回／年、実施しているが、教育が十分でない職員に対しては、その都度注意・教育を行って接遇に対する意識を高めていきたい。)

ロッカ一代(200円/日)の請求について

前回訪問時、鍵付ロッカー(床頭台の鍵付部分)を利用していなかった患者から「ポケットにサイフを入れて寝ていたらどろぼうにあった」「早く退院できるように言わずにがまんしている」との声があった。鍵付ロッカー(床頭台の鍵付部分)使用料が1日200円であり、検討をお願いしたところ、病院から一律的な徴収ではないとの説明と、「鍵付ロッカーの使用料金の徴収については、金額も含めて再検討したい」との回答があつたが、今回も鍵付ロッカー使用料200円は変わっていなかった。(病院：盗難防止対策として鍵付きロッカーを利用される患者の要望により申し込みを受け付けております。一律的に使用料を徴収している状況でないこと事は前回の訪問時にも説明させて頂きました。設備維持には費用が伴い、またサービスの対価として使用料を徴収させて頂いております。)

お茶代の請求について

保険外費用徴収の中にお茶代1日100円という選択肢があった。デイルームにある給茶機の使用や、認知症病棟であれば職員が定期的に巡回して配るお茶についての費用負担のことだった。絶食の場合は不要だが、多くの患者はお茶代1日100円を選択しているそうだ。訪問時は、認知症病棟では全員が費用負担していたが、これまでには、費用を負担せずに家族が毎日ペットボトルのお茶を持込み、それを飲んでもらう場合もあったとのことだった。病院によると「医学的なこと以外で提供するお茶は、支払いが必要ではないか」「昔はお弁当にお茶がついてきたが、今はお茶も買う時代になってきた」とのことだった。(病院：各部屋に洗面所が設置されており飲水は可能となっており、自ら必要量を最小限水分補給として飲水することは可能です。しかし、快適に療養していただく上でお茶・お湯等が出る給茶器を設置して茶葉を頻回に入れ替えてより快適な水分を補うことを希望される患者に提供する対価として徴収させて頂いております。一律の徴収ではなく、選択性としています。)

精神保健福祉資料より(平成28.6.30時点)

513名の入院者のうち統合失調症群が254名(50%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が122名(24%)、気分障害が95名(19%)。入院形態は任意入院191名(37%)、医療保護入院320名(62%)、措置入院2名(0.3%)。在院期間は1年未満が321名(63%)、1年以上5年未満の患者が105名(20%)、5年以上10年未満の患者が37名(7%)、10年以上20年未満が40名(8%)、20年以上が10名(2%)



扉よひらけ⑦

大阪精神科病院事情ありのまま 2015

クリック

210ページのうち 192ページ ほどは 大阪府内の精神科病床のある全病院への訪問活動の報告です。

A4 サイズ / 210 ページ
2,000 円

目次

- ・大阪における精神科病院への訪問活動のうつりかわり
- ・療養環境サポーター制度について
- ・各病院の訪問報告
- ・各病院の職種別職員数一覧表
- ・精神科病院訪問ボランティアへのインタビュー
- ・入院中の精神障害者の権利に関する宣言

療養環境サポーター
最新報告

人権センターニュース毎号 2 病院掲載中

入会やご寄付のおねがい

私たちの財政的基盤の中心は「会費」や「寄付」となります。活動を維持し、充実させるためには、皆様からの支援が必要となります。



電話・面会相談では相談者の方からお金を頂いておらず、訪問活動（療養環境サポーター制度）でも大阪府等から委託費用の支払はありません。特に面会活動の拡充のためには、交通費（1回 2,000 円～4,000 円／2名分）や複数の事務局スタッフの人事費（年間約 500 万円）が必要となります。

会費・寄付の申込と支払方法

ご寄付もいつでも受付けています。

会員種別 年会費

障害者	1,000 円
個人	3,000 円
団体	5,000 円

特別協力会員 & 寄付
大募集

A	10,000 円
B	30,000 円
C	50,000 円

会員特典

人権センターニュースの送付

2か月に1回 年間6冊

人権センターニュースは、「声をきく」ことを重要な価値観とする私たちだからこそ発信できる情報が盛りだくさんです。また、病院訪問報告書も毎号2病院掲載しており、大阪府内の病院の療養環境の改善状況等をることができます。当事者・家族の皆様だけでなく、精神科病院に勤務する皆様や地域精神医療保健福祉にかかわる皆様にも必見です。



メルマガ配信 1か月に1回から2回

精神医療及び精神保健福祉にかかわる最新ニュースや私たちの講演会・セミナー情報等をいち早くお知らせします。

活動参加の方の情報提供

面会活動だけでなく、講演会の企画・運営や広報誌・SNSによる情報発信のサポート等いろいろな形で参加できます。

※面会活動は養成講座の受講が条件となります。

寄付特典



税額控除とは？

ご寄付をしても
税額控除を受け
られる場合、
確定申告によって
『税額控除』を受ける
ことができます。

*確定申告は最寄りの税務署に
ご相談ください。*大阪府（本市を除く）に在住
の方は、地方税のみ控除されます。*控除には限度額があり、実際の
税額はケースにより異なります。

10,000円のご寄付で、2～3名の面会が可能になります。

寄付金 1万円の時

所得税額 -3,200 円

実質負担
6,800 円

寄付金 5万円の時

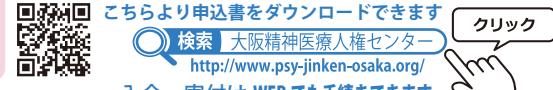
所得税額 -19,200 円

実質負担
30,800 円郵便払込 口座番号 00960-3-27152
加入者名 NPO 大阪精神医療人権センター

銀行振込 三井住友銀行 南森町支店 普通 1485805

現金 講演会会場・事務所にて

クレジットカード ウェブサイトのみ



こちらより申込書をダウンロードできます

検索 大阪精神医療人権センター

<http://www.psy-jinken-osaka.org/>

入会・寄付は WEB でも手続きできます。



認定 NPO 法人大阪精神医療人権センター

お問い合わせ

〒530-0047 大阪市北区西天満 5-9-5 谷山ビル 9F

TEL 06-6313-0056 FAX 06-6313-0058 メール advocacy@pearl.ocn.ne.jp